

今年度の研修計画

大分県集落営農推進西部支部では、集落営農組織・集落営農を目指す集落を対象に各種研修会を計画しています。集落営農組織化を検討している地区役員の方々や集落営農組織の役員、次期役員候補者、オペレーターの方々など積極的な参加をお待ちしています。

| 時期 | 研修名 | 研修内容(予定) | 対象者(組織) | | |
|-------|-----------------|---------------------------------|---------|--------|------------|
| | | | 未組織 | 集落営農組織 | 集落営農組織(法人) |
| 8月上旬 | 第1回集落営農法人人材養成講座 | 農業情勢や補助事業・融資制度の説明、優良組織事例紹介 | | ○ | ○ |
| 8月下旬 | 第2回集落営農法人人材養成講座 | 組織運営に有効な各種集計方法、農業資材情勢の紹介 | | ○ | ○ |
| 8月下旬 | オペレーター研修 | 大型機械の保守点検やオペレーターの重要性について | | ○ | ○ |
| 9月上旬 | 集落営農育成研修会 | 集落営農の事例等紹介、鳥獣害対策について | ○ | ○ | ○ |
| 11月中旬 | 第1回パソコン簿記研修 | 主として法人組織対象にパソコンによる複式簿記の操作・決算書作成 | | | ○ |
| 11月下旬 | 第2回パソコン簿記研修 | 主として法人組織対象にパソコンによる複式簿記の操作・決算書作成 | | | ○ |
| 1月中旬 | 経営相談会 | 税理士による個別経営相談会 | | ○ | ○ |

大分市で行われる研修会(大分県集落営農推進本部主催)

| 時期 | 研修名 | 研修内容(予定) | 対象者(組織) | | |
|-------|-------------------|--------------------------------|---------|--------|------|
| | | | 集落営農組織 | 集落営農組織 | (法人) |
| 7月4日 | 集落営農法人人材養成講座(第1回) | 法人化を目指す組織を対象にした法人化基礎知識研修 | ○ | | |
| 7月12日 | 集落営農法人人材養成講座(第2回) | 法人化を目指す組織を対象にした法人化に向けたディスカッション | ○ | | |
| 7月19日 | 集落営農法人人材養成講座(第3回) | 法人経営における有効な経営手法について | | | ○ |
| 7月26日 | 集落営農法人人材養成講座(第4回) | 法人における後継者確保について | | | ○ |
| 8月2日 | 集落営農法人人材養成講座(第5回) | 法人が6次産業に取り組む場合の基礎知識について | | | ○ |

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部 集落・水田班
監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL : 0973-22-2585 FAX : 0973-23-2219

集落営農かわら版

平成24年6月15日 VOL. 18

大分県西部振興局農山村振興部

大分県集落営農推進西部支部

部長挨拶

このたび、農山村振興部長に着任しました三瀬 晶^{みせあきら}です。近年の農業情勢については特に目まぐるしく変化しており、農家のみなさまにおかれましてはその対応に苦慮していることと思います。

このような中、集落営農については、水田農業の重要な担い手の確保・育成策として位置づけられており、関係機関一体となって支援しているところであります。今後とも皆さんと力を合わせ、活力ある集落づくりをご支援していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



新しい集落営農組織のご紹介

《日田市上津江・雉谷営農組合》平成24年2月19日設立

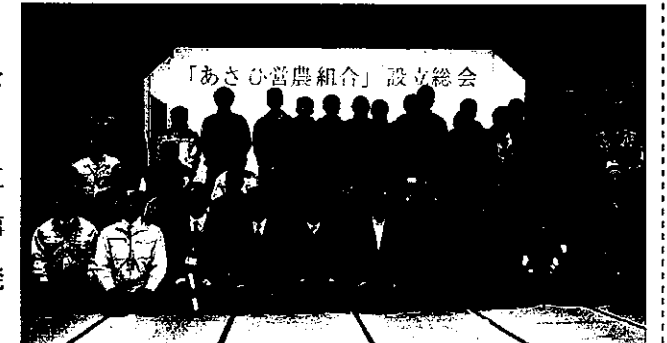
雉谷地区では、中山間地域等直接支払制度を活用して、農地の保全に取り組んできました。昨年3月の集落説明会で、雉谷の将来を考えていこうと機運が高まり、先進地研修や勉強会、集落アンケートの実施により、意識の共有を行ってきました。平成23年10月に準備委員会を設立し、組織設立のための話し合いを重ね、平成24年2月19日に雉谷営農組合設立総会が開催されました。組合には、農家27名、非農家6名、農産加工グループ「ふれあいの里きじや」が参加しています。今後は、担い手の育成や作業の省力化などの課題もありますが、みんなで一つ一つ勉強していきながら協力して活動していきます。



「雉谷営農組合設立総会」

《日田市朝日・あさひ営農組合》平成24年2月21日設立

朝日地区では、平成21年度から基盤整備事業に取り組み、併せて基盤整備後の農地を守る営農体制について検討を重ねてきました。そのうち、第1工区である朝日工区では、24年産から水稲作付けを開始することから、他工区に先立って集落営農組織を設立することにしました。基盤整備事業の換地委員を中心に平成23年5月に設立準備委員会を発足、9月には実際の作業を担うオペレーター部会も設置し、集落営農に関するアンケート調査結果や先進地研修をもと



「あさひ営農組合設立総会」

に活動体制や規約・規程などを整備してきました。転作品目の選定や供給先を見つけることに時間がかかりましたが、WCS（ホールクroppサイレージ）稲を作付けし市内の畜産農家へ供給することで話ができ、この度あさひ営農組合（組合員54名）が設立されました。初めてのことばかりではありますが、早速4月からWCS稲の育苗作業に取りかかっており、今後の活躍が期待されます。

《日田市花月・農事組合法人かげつ》平成24年5月9日設立総会開催

農事組合法人かげつの設立総会が開催されました。構成員88名で、日田市小河内町、市ノ瀬町、秋原町の水田約30haが対象の、日田市で6番目の集落営農法人です。

この地区では平成9年度に市ノ瀬機械利用組合が設立され、15年間にわたって農作業受託を中心とした営農活動を継続してきましたが、活動の中で出てきた課題を解決するため、平成21年7月から2年半にわたって30回近くの学習会や先進地視察、法人設立委員会等、法人化に向けて検討を重ねた結果、今回の法人設立に至りました。今後は、任意組織ではできなかった課題解決を図り、積極的な農業経営を行う予定です。



「農事組合法人かげつ設立総会」

各市町における集落営農組織連携活動の紹介

各都市ごとに設立された集落営農組織相互の連携強化、情報交換、今後の運営・経営確立に資するための研鑽を図ることを目的として活動している協議会・連絡会を紹介します。

○玖珠九重集落営農組織連絡協議会

玖珠九重集落営農組織連絡協議会は、平成20年1月に設立されました。郡内に設立された29組織のうち28組織が加入しており、活発な活動を行っています。

5月8日に総会が開催され、本年度の事業計画や新役員を決定しました。主な活動は、研修会、先進地事例研修(視察研修)、代表者会議、機関誌の発行(年2~3回)などです。研修会では、講師を招いて集落営農の先進的な取り組みを学んだり、新たな施策や制度、地域で役立つ情報等の紹介などを行っています。昨年は(農)紫草の里営農組合の取り組みや人・農地プラン等について研修しました。先進地視察研修は、実際に現地へ訪れて、先進的な



「選出された新役員による挨拶」

事例に触れており、昨年度は臼杵市におけるセンチビードグラスによる畦畔管理省力化の事例を研修しました。代表者会議は、昨年度から始めましたが、各組織の取組内容や工夫している事柄、今後の方向性などを組織の代表者が発表し、質疑応答や意見交換を行う内容としています。機関誌は、昨年度から発行を始めました。各組織での工夫している点や、組織の動き、新しい技術、協議会の研修会の内容などを加入組織の全組合員向けに作成、配布を行っています。

◎日田市集落営農組織連絡会

日田市集落営農組織連絡会では、日田市内で設立されたすべての集落営農組織に参加を呼びかけています。23年度の活動としては、各組織の活動状況や抱えている課題などを報告し、意見交換を行ったり、様々な農業施策や農業資材・栽培技術の最新情報等を学ぶ研修会を開催しました。また、県内先進地事例研修(視察研修)を行い、豊後高田市と杵築市にある集落営農組織の運営方法や組織の課題解決方法・手段などについて学びました。

このような活動を通じて集落営農組織間の連携がなされ、機械等の有効活用、生産費の低減化など各組織が抱えている課題の解決の一助となっています。



「先進地視察研修」



「情報交換・研修会」

水稻栽培情報(対象期間:田植え後~穂肥)

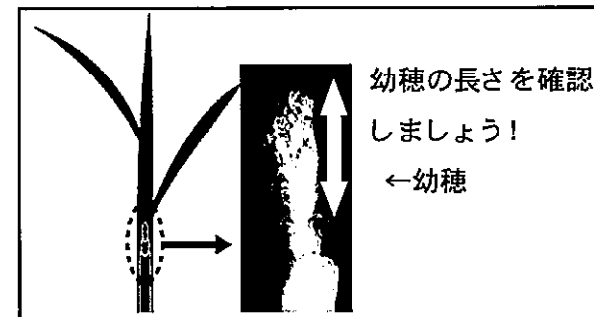
<水管理>田植後、活着するまでは深水管理を行い、活着後は浅水管理を行いましょう。茎数が株あたり18~20本程度になったら中干しをしましょう。中干しは根の活性化、無効分けつの抑制、倒伏防止に効果があります。田面に割目ができ、踏むと足跡が付く程度までしっかり行きましょう。中干し後の水管理は再び間断灌水を行います。穂ばらみ期から開花期にかけては、稲の水分要求量が高まることから灌水管理を行い、その後は根の活性化を図るため、間断灌水に切り変えましょう。また、台風到来の際は深水管理で根痛みを防ぎましょう。台風通過直後はフェーン現象により稲が脱水症状を起こしやすいことから、灌水状態を保つようにしてください。

<穂肥>田植時期と今後の天候次第で穂肥施用時期も前後します。各ほ場の生育状況を確認し適期に穂肥を施用しましょう。葉色の濃い圃場では施肥量を減らします。

穂肥施用時期の目安

| | |
|--------|-------------------|
| 黒ボク土壌 | 幼穂長3mm(出穂30日前) |
| その他の土壌 | 幼穂長5~10mm(出穂20日前) |

※一発肥料を施用した場合は、葉色が淡くなくても穂肥を施用しないように!



幼穂の長さを確認
しましょう!
←幼穂

<防除>ひとめぼれ、コシヒカリ、ヒノヒカリは、いもち病に弱い品種です。いもち病の発生を確認したら、早めに防除を行いましょう。また、近年カメムシの被害による品質低下が増加傾向にあります。適期防除に努めましょう。なお、特別栽培米については栽培暦を遵守して下さい。その他、県の病害虫発生予察情報「<http://www.jpjn.ne.jp/oita/>」などもご参照ください。